

## 第2章

### センター研究2（2年計画・1年次）

個別最適な学びと協働的な学びの  
一体的な充実による授業改善



# 目 次

<b>I 研究の概要</b>	
1 研究の背景	21
2 研究のねらい	21
3 研究の仮説	21
4 研究の内容	22
<b>II 研究の実際</b>	
1 本研究における言葉の捉え方	23
2 3班体制での研究の推進	24
3 演習の実際	25
4 指導案検討をしたシートの分析	27
5 付箋の整理・分類	28
6 「学習場面例」と「ICT一覧表」	29
<b>III 研究のまとめ</b>	
1 1年次の成果と課題	31
2 2年次に向けて	31
3 研修講座資料	32
■ 引用・参考文献	36

# I 研究の概要

## 1 研究の背景

学習指導要領では、児童生徒の資質・能力の育成のため、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しています。このことを踏まえ、当センターでは、平成30年度から視点を変えながら授業改善に関する研究に取り組んでいます（図1）。これまで、授業づくりの理念やヒント集、資質・能力を活用・発揮できるアイデアなどを提案してきましたが、令和4年度からは次の答申に着目し、研究を進めることとしました。



図1 授業改善に関するこれまでの研究

令和3年答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(以下「令和3年答申」と略)では、学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であると述べられています。また、同じく令和3年答申では、「個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、ICTは必要不可欠なものである」とも述べられています。このことは、本県の令和4年度「学校教育の指針」で、全教育活動を通して取り組む教育課題として示された「ICTを活用した教育の推進」にもつながるものです。

以上のことから、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で研究に取り組むことは、学習指導要領及び「令和3年答申」、本県の「学校教育の指針」の趣旨が一層具現化され、各教科等における「主体的・対話的で深い学び」の実現と児童生徒の資質・能力の確実な育成に資するものと考えます。

## 2 研究のねらい

本研究は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で、授業づくりやICTの効果的な活用について検討することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた更なる授業改善に資することをねらいとします。

## 3 研究の仮説

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で、学習活動や教師の支援、

I C Tの効果的な活用等を検討し、授業改善に取り組むことで、各教科等における「主体的・対話的で深い学び」の実現と、児童生徒の資質・能力の確実な育成に資するだろう。

#### 4 研究の内容

##### (1) 1年次（令和4年度）の取組

- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」等の言葉の捉え方について検討し、研修講座で活用する説明資料を作成しました。
- ・各教科の研修講座において、既存の学習指導案を基に、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点から、学習活動や教師の支援について検討する演習を実施しました。
- ・演習シートや付箋の記述を基に、「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」について分析し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を取り入れることができる「学習場面例」についてまとめました。
- ・I C Tの活用事例や先行研究について情報を収集するとともに、演習シートや付箋の記述を参考にしながら、「I C T一覧表」の作成に取り組みました。

##### (2) 2年次（令和5年度）の取組

- ・1年次に作成した「学習場面例」や「I C T一覧表」を活用し、より具体的に「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で、授業づくりに取り組むことができる演習を実施します。
- ・演習の内容を基に、授業づくりに役立つ「手引」を作成します。
- ・2年間の研究成果について、秋田県教育研究発表会において発表し、当センターウェブサイトで公開します。



## Ⅱ 研究の実際

### 1 本研究における言葉の捉え方

本研究では、「個別最適な学び」「協働的な学び」が、資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」を更に充実させるための視点であると捉えます。そして、それらの学びを効果的に行うための基盤的ツールとしてICTの活用が必要不可欠であることを踏まえ、授業改善のイメージ図（図2）を作成し、本研究で使用する言葉を次のように捉えました。

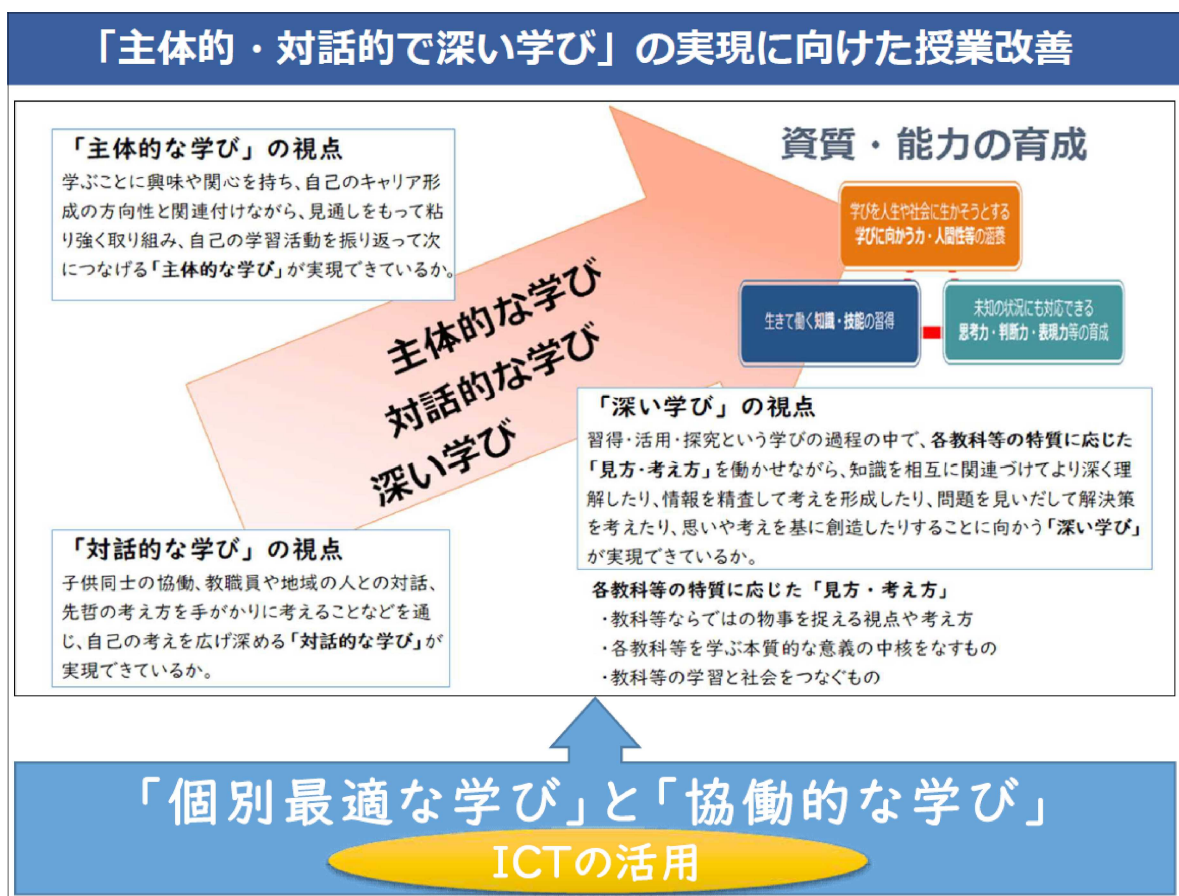


図2 授業改善のイメージ図

#### <個別最適な学び>

児童生徒が、学習課題や学習方法、学習活動などを、学習の定着度や興味・関心に応じて選択や設定ができる学び

#### <協働的な学び>

児童生徒が、多様な他者と共に活動することで、考えを広げ、深めることができる学び

## 2 3班体制での研究の推進

1年次は、「研究キーワード検討班」「講座運営企画班」「ICT活用調査班」の3班(図3)に分かれて研究を進めました。

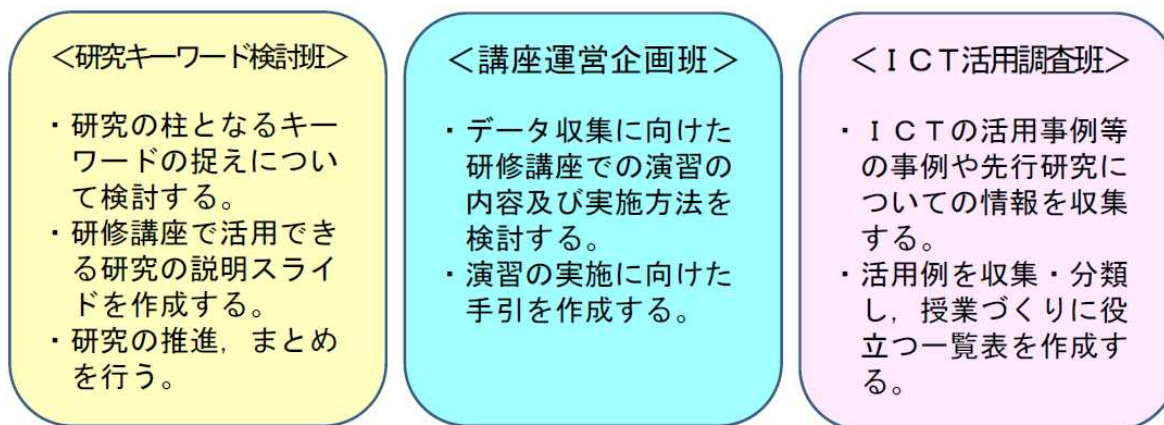


図3 3班体制での研究推進と各班の役割

研究キーワード検討班は、「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」等の言葉の捉え方を確認し、ポイントをまとめた研修講座資料(図4)を作成しました。資料は、各研修講座での説明で活用し、「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実に向けた取組であることを前提として、各キーワードについて、受講者の理解が深まるよう工夫しました。

講座運営企画班は、研修講座で行う演習の実施方法を検討し、モデルとなる流れを作成しました。演習は、学習指導案と付箋を用いて、これまでの学習活動や教師の支援について検討する形態としました。演習の実施後は、成果や課題について報告し、より充実した演習になるよう情報共有を図りました(図5)。

ICT活用調査班は、ICTの活用に関する先行研究事例や、使用するソフトや機能の種類等について情報を収集しました。また、演習での受講者の発言や付箋に書かれた内容を基に、授業づくりに役立つ一覧表の作成に向けて、分類や整理の方法、提示の仕方などを検討しました。

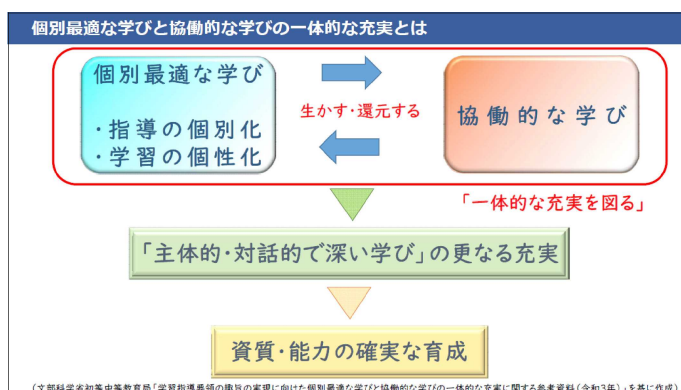


図4 研修講座資料の一例



図5 講座運営企画班の取組

### 3 演習の実際

#### (1) 演習の流れ

演習のはじめに、「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」等のキーワードとなる言葉の捉え方について説明し、学習指導案の検討をします。検討は、既存の学習指導案を基に、「個別最適な学び」は黄色、「協働的な学び」は青、「ICTの活用」はピンク、と色分けをした付箋に、学習活動や教師の支援についてのアイデアを書き込む形で行いました。その後、一体的な充実を図ることができる場面について考察を行いました(図6)。演習は、小・中・高等学校の各教科の研修講座で実施しました。

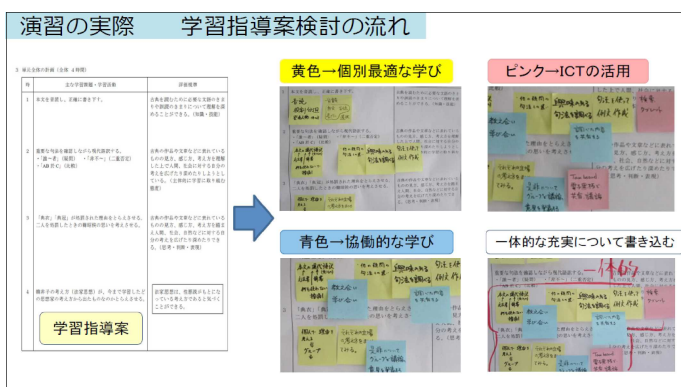


図6 学習指導案検討の流れ

#### (2) 小学校算数の演習紹介

演習の事例として、実践的指導力習得研修講座(小学校2年目)算数の取組を紹介します。はじめに、学習指導案を基に、個人での検討やグループでの協議を行いました(図7)。「個別最適な学び」の付箋には、「自力解決の場面でブロックやシール、絵などの方法から児童が自分に合った学び方や解決方法を選択する」といったアイデアが書き込まれました。また、それぞれの学びを効果的に進めるための「ICTの活用」について、タブレットや大型モニタによる共有、振り返りなどが検討されました。

まとめと考察(図8)では、「学び方や解決方法を複数設定して選択できるようにすることが有効だと感じた」「個別から協働、協働から個別への流れの中で、学びが深まる」といった意見が出されました。本研修講座では、まとめと考察を行った後、より実践的な取組として、「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点を取り入れた学習指導案の作成と模擬授業を実施しました。

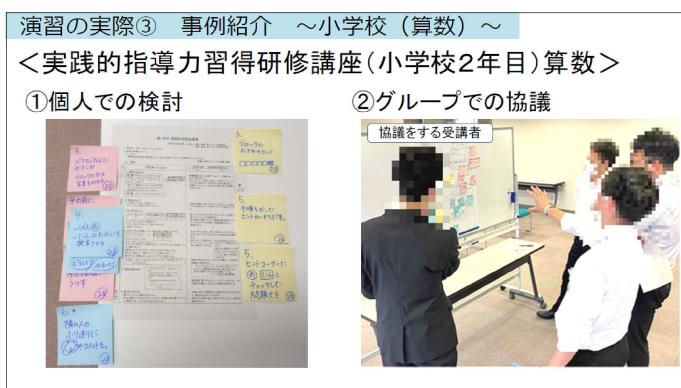


図7 各教科の演習の様子

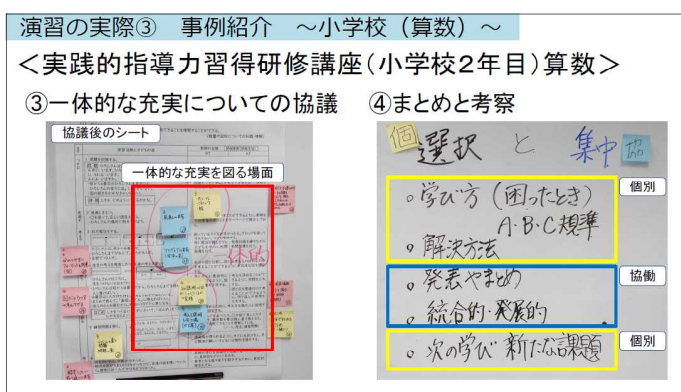


図8 各教科の演習の様子



(3) 多様な場面での授業検討, 情報収集

(1)(2)で紹介した学習指導案の検討を基本としながら, DVD授業研修を基にした検討, 思考ツールによる検討, ICTを活用した学習指導案の検討, 中高合同研修での意見交換など, 当センターで実施されている様々な研修講座の形態に合わせて, 広く授業検討や情報収集を行いました(図9)。

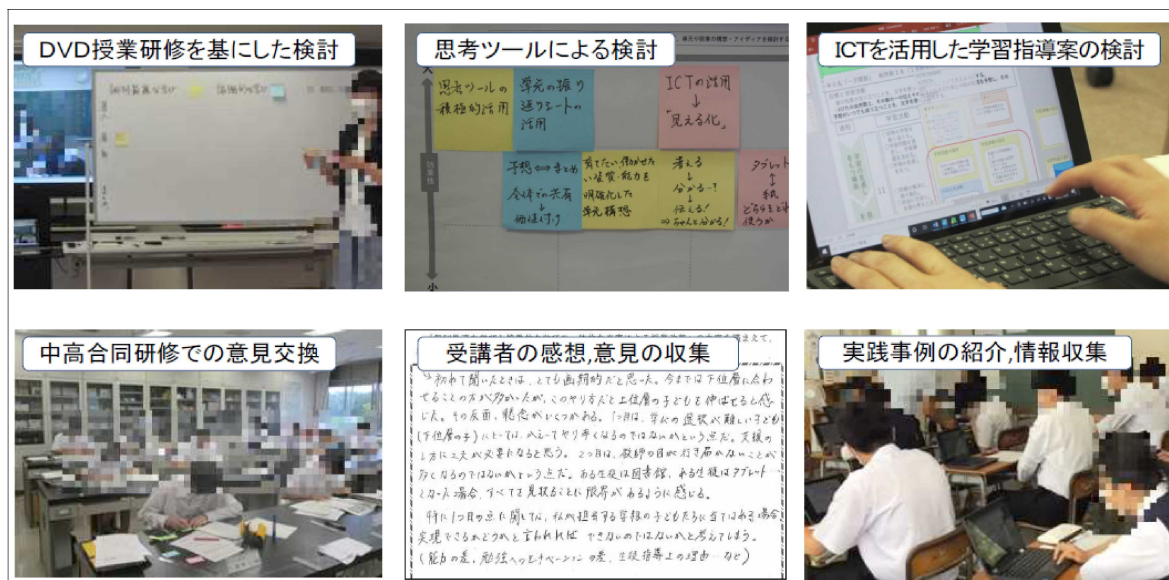


図9 多様な場面での情報収集

(4) 受講者の感想から

受講者Aは, 演習を通して, これまで取り組んできたことの中に, 「個別最適な学び」や「協働的な学び」に通じるものがあつたことに気付いたと記述しています(図10)。また, 受講者Bの記述からは, 「個別最適な学び」について理解が深まったことに加え, 今後の授業づくりに対する意識が高まったことが読み取れます(図11)。

意識せずに行っていたことが「個別最適な学び」であったり「協働的な学び」であったりするということも、今日の模擬授業がうよくわかりました。(当日、着目したので)

図10 受講者Aの感想

受講者Cは, 「個別最適な学び」や「協働的な学び」が, 授業のどの場面でも取り入れられるとした上で, 一体的な充実について考察しました(図12)。

美術科ではあたりまえなこととして取り組んできたことが、個別最適な学びであることに気付くことができました。『こういう』という意図や思いを強く明確に引き出す工夫が大切なのだと思います。

図11 受講者Bの感想

受講者Dは, 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を単元のどこに位置付けるかが重要であると捉え, ICTの活用によって学びが一層活性化すると記述しました(図13)。

提示していただいた授業や指導案をもとに授業で行われる学習活動について考えたが、どの活動、場面にも取り入れることができることを感じた。また「個別」と「協働、も別のものではなく、一体的に捉えていくことができるものであることを改めて感じた。

図12 受講者Cの感想

以上のような受講者の感想の記述



から、学習指導案を見直す演習を通して、「個別最適な学び」「協働的な学び」「一体的な充実」等についての理解が深まったことに加え、新たな気付きを得て、授業改善に対する意識が向上したことを読み取ることができました。

単元構成もする中で、どのタイミングでの個別最適な学びと協働的な学びが効果的かをよく考えたいと思います。場当たり的な授業にならないように、ねらいを達成した生徒の姿をイメージして授業づくりを進めたいです。

また、ICTを活用することで、個別最適な学びもより一層活性化できると思うので、後期は積極的に活用していきたいです。

図13 受講者Dの感想

#### 4 指導案検討をしたシートの分析

演習の内容を基に、1年次のまとめに向けて、教科担当の指導主事が学習指導案の検討を行ったシートの分析をしました。

##### (1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」

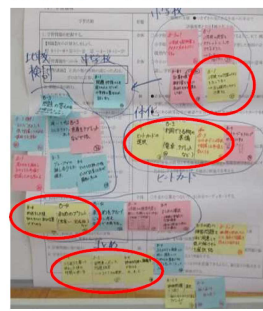
「個別最適な学び」の付箋は、授業の「導入」「展開」「まとめ」のいずれの場面にもまんべんなく貼られており、各場面で設定できることが分かりました(図14-①)。

「協働的な学び」は、「個別最適な学び」と連動して貼られている部分が多くあり、「個別最適な学び」と関連付けながら設定していくことで効果が大きくなると分析しました(図14-②)。

また、演習シートの一部では、授業のねらいと離れた学習活動や教師の支援が記されている付箋も見られました。指導案検討を行う際には、身に付けるべき資質・能力を明確にした上で、効果的な学習活動や教師の支援について検討することが大切であることも再確認しました。

##### 分析・検討

##### 分析① 「個別最適な学び」「協働的な学び」



・「個別最適な学び」の付箋は、授業の「導入」「展開」「まとめ」のどの場面においてもまんべんなく貼られている。

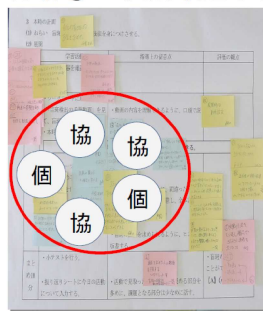
・「協働的な学び」の付箋は、「個別最適な学び」と連動して貼られている。「協働的な学び」の設定で、「個別最適な学び」が生きるという意見が多い。

・授業のねらいを明確にして学習活動を検討することが大切である。

図14 - ① 演習シートの分析①「個別最適な学び」

##### 分析・検討

##### 分析① 「個別最適な学び」「協働的な学び」



・「個別最適な学び」の付箋は、授業の「導入」「展開」「まとめ」のどの場面においてもまんべんなく貼られている。

・「協働的な学び」の付箋は、「個別最適な学び」と連動して貼られている。「協働的な学び」の設定で、「個別最適な学び」が生きるという意見が多い。

・授業のねらいを明確にして学習活動を検討することが大切である。

図14 - ② 演習シートの分析①「協働的な学び」

##### (2) 「一体的な充実」

一体的な充実について考察した部分では、「個別最適な学び」から「協働的な学び」、更に「個別最適な学び」という流れになっている部分に着目したものが多くありました。この流れが、一体的な充実の一つの形になると考えます(図15)。また、一体的な充実を通して、深い学びの実現や新たな課題の発見につながっていくことを考察しているシートもあり、一体的な充実を図ることの重要性が見えてきました。

(3) ICTの活用

ICTの活用についての記述からは、学習活動の幅が広がり、多様になることが確認できました。一方で、機材や活用状況、ソフトウェアや機能が、校種や地区によって異なるため、意見共有が進まない面も見られました。この点を踏まえ、授業づくりに役立つ一覧表の作成においては、用途によって整理するなどの工夫が必要となることを確認しました(図16)。

5 付箋の整理・分類

次に、演習シートの付箋の記述を整理・分類し、「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点を設定できる学習場面を検討しました。

例えば、「学習コーナーや既習事項の掲示の活用(算数)」「これまでの学習を確認する(理科)」などの付箋を基に「既習を確認する場面」、また、「音読の方法を選択する(国語)」「経済発展か、環境保全かを選択して考える(社会)」「課題解決のための方法を複数用意し、児童が選択できるようにする(算数)」などの付箋を基に、「学習活動を選択する場面」という分類を行いました(図17)。

同様に「協働的な学び」の付箋から、意見の交流や共有を行う「交流や共有をする場面」、話し合いや議論を通して新たな考えや課題を発見する「協議や議論をする場面」のほか、「制作や表現をする場面」などの分類を行いました(図18)。いずれも「個別最適な学び」を基にした協働での学びになっていることがポ

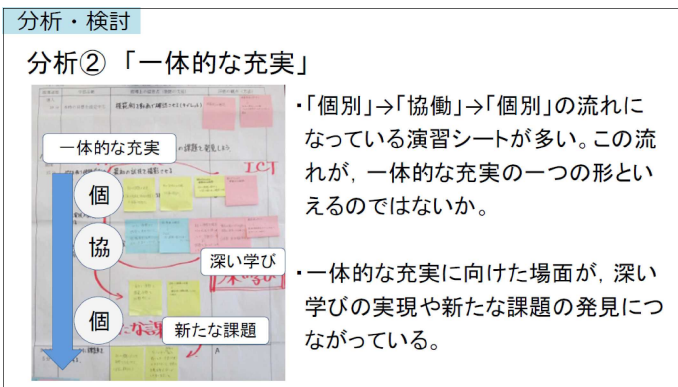


図15 演習シートの分析②「一体的な充実」

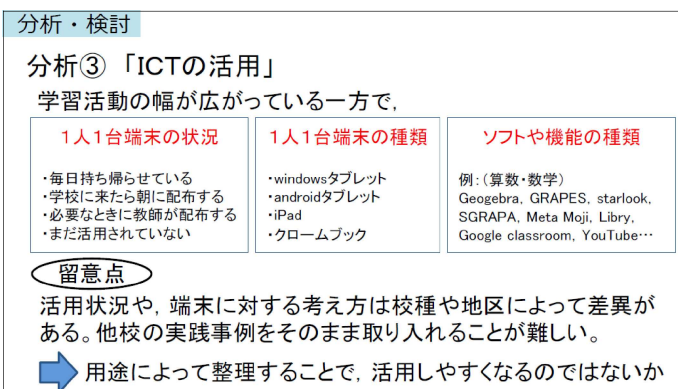


図16 演習シートの分析③「ICTの活用」

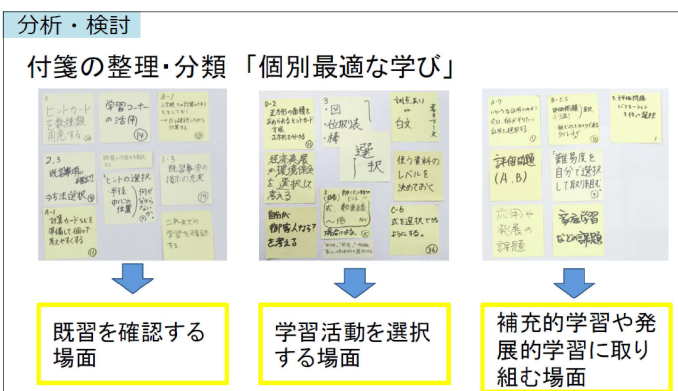


図17 付箋の整理・分類①「個別最適な学び」

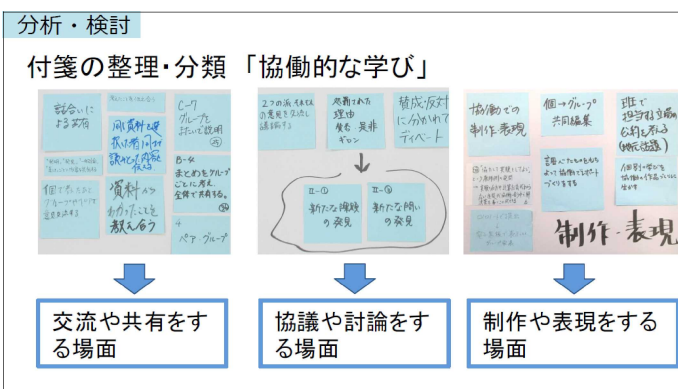


図18 付箋の整理・分類②「協働的な学び」

イントといえます。

「ICTの活用」についての付箋には、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を円滑に進めるための活用が記述されていました。付箋の分類から、「共有や整理をする場面での活用」「学習のまとめの場面での活用」のほか、「オンラインでの協議」や「インターネット上のマップを使った調べ学習」などの記述から、「ICTの活用で可能になる活動」などの分類を行いました(図19)。

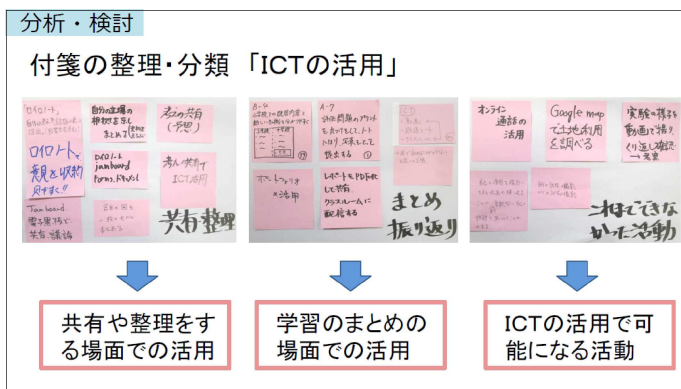


図19 付箋の整理・分類③「ICTの活用」

## 6 「学習場面例」と「ICT一覧表」

付箋の整理・分類を基に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を設定することのできる「学習場面例」をまとめました(図20)。「個別最適な学び」を設定できる場面として、「既習の学習内容を確認する場面」「学習課題やめあてを設定する場面」「情報を収集する場面」「補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面」などを取り上げました。また、「協働的な学び」を設定できる場面として、「交流や共有をする場面」「整理やまとめをする場面」「制作や表現、実践をする場面」「相互評価をする場面」などを取り上げました。

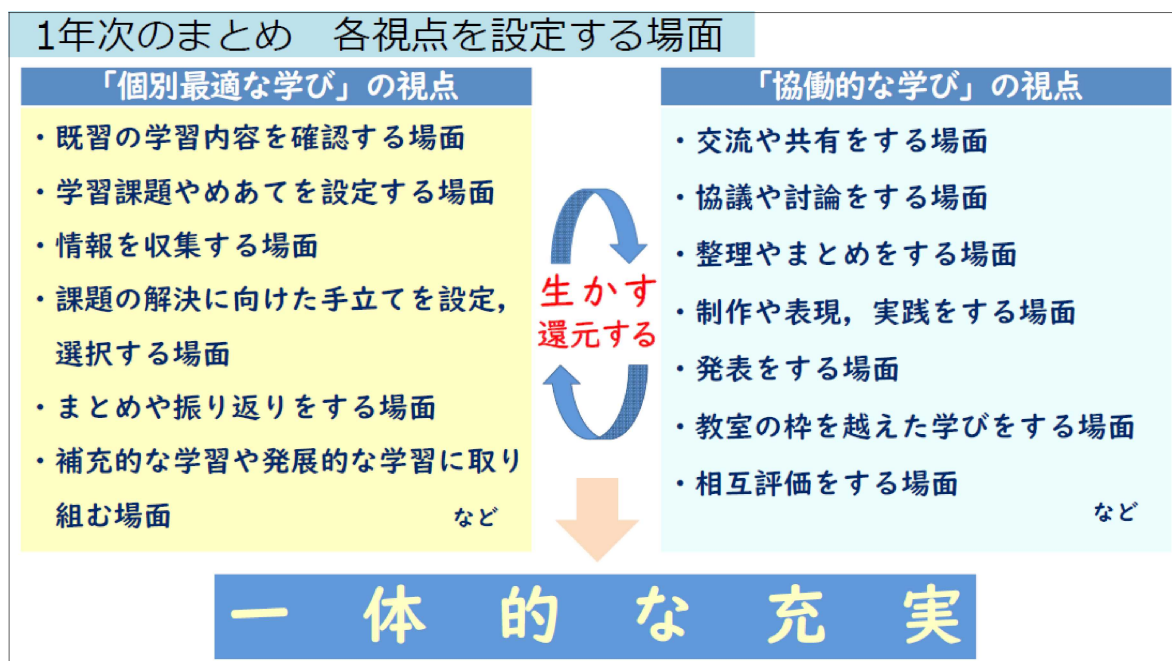


図20 各視点を設定することのできる学習場面例

また、これらの学習場面を、ねらいに応じて組み合わせて単元(題材)や授業を構想することにより、「一体的な充実」が図られていくものと捉えました。



「ICTの活用」については、付箋の記載や受講者の感想から見えてきた課題を踏まえ、「ICT一覧表」を作成しました(図21)。図20で示した「各視点を設定することのできる学習場面例」を基に、各場面や、場面と場面を組み合わせた場合の学習活動、学習活動を円滑に進めていくためのソフトウェアや機能をまとめることとしました。

「個別最適な学び」の視点	「協働的な学び」の視点	授業場面における学習活動	内容例	ソフトウェアや機能
情報を収集する場面	教室の枠を越えた学びをする場面	オンラインでの校外実習に参加する	小学校3年社会科の学習「身近な地域の様子や見学」をオンラインにより実施する。地域の農家の方へのインタビューをZoomで行う。また施設の様子を農家の方から伝えてもらうなど、ICTを効果的に活用しながら学習を進める。	Zoom
自ら学習を調整する場面		知識・技能の習得を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>古文や漢文等の教材となる動画を視聴して、言葉の響きやリズムに親しむ。</li> <li>書写の指導において、デジタル教科書等を活用して、点画の書き方への理解を深める。</li> <li>跳び箱運動の技について確認する。</li> </ul>	デジタル教科書
学習課題やめあてを設定する場面	交流や共有をする場面	自分の考えを深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えたことを画面上の付箋に書き出し、その付箋を目的や意図に応じて分類する。</li> <li>プレゼンテーションソフト上でスライドを並べ替えるなどして、自分の伝えたいことがより明確に伝わるよう、目的や意図、相手に応じて用いる情報を取捨選択したり、話や文章の構成を考えたりする。</li> <li>デジタル教科書上で自分が重要だと考えた箇所に線を引く、友達と比較するなどして、考え直した場合に線を引き直す。</li> </ul>	ロイロノート 付箋アプリ パワーポイント
課題の解決に向けた手立てを設定、選択する場面	発表をする場面	考えたことを表現、共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラやカメラ付端末を活用し、スピーチや話合いの様子を録画・再生して自分の話し方を確認したり助言し合ったりする。</li> <li>プレゼンテーションソフトを活用して発表資料を作成する。</li> </ul>	カメラ パワーポイント
既習の学習内容を確認する場面		学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルとなるスピーチの動画を視聴し、学習の見通しをもつ。</li> <li>以降の学習における様々な学習活動において自分の必要に応じて適宜参照できるよう、学習した内容を個人のフォルダに蓄積する。</li> <li>内容のまとまりごとに、学んだことを蓄積していくことで、過去の学びを振り返りながら理解を深めていくことができ、ポートフォリオとして活用できる。</li> <li>自学時間を毎日記録し自己の学習を管理する(授業以外での活用)。</li> </ul>	インターネット ロイロノート Classi

図21 ICT一覧表



### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 1年次の成果と課題

<成果>

- 受講者の振り返りや感想から、演習において「個別最適な学び」や「協働的な学び」を意識的に取り入れる機会を設定したことで、受講者の授業改善に対する意識の高まりが見られた。
- 演習の過程で「一体的な充実」について考察をしたことで、受講者の「主体的・対話的で深い学び」に対する理解が深まった。
- ICTの効果的な活用について、受講者と再確認することができた。

<課題>

- 1年次は、学習指導案検討を中心として演習を行ったが、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点で、実際に授業づくりをするためには、児童生徒の思考に沿った、より具体的で実践的な演習を設定していく必要がある。
- ICTの効果的な活用について継続して情報を収集し、まとめ方を検討する必要がある。

#### 2 2年次に向けて

成果と課題を踏まえ、2年次は、今年度まとめた「各視点を設定することのできる授業場面例」「ICT一覧表」を活用し、より具体的な授業づくりに関する演習を実施していきます。また、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について理解を深めたり、授業に取り入れやすくしたりするための「手引」（図22）等を作成し、授業改善に役立つ研究にしていきたいと考えています。

## 2年次に向けて

### 表紙のイメージ



秋田県総合教育センター

### 内容のイメージ

2. 「個別最適な学び」が「協働的な学び」の捉え方

個別最適な学びって何だろう？

「『個別最適な学び』の意義を捉える」

「『個別最適な学び』の意義を捉える」

「『個別最適な学び』の意義を捉える」

**指導の個別化**

- 一定の目標を、すべての児童生徒が達成することを目指して
- 授業進度・一人一人の特性や学習態度、学習到達度等に応じて
- 必要に応じた重点的指導や指導方法、教材等の工夫を行う

**学習の個性化**

- 異なる目標、一人一人の児童生徒が達成することを目指して
- 授業進度の異速・開心、キャリア形成の外面等に応じて
- 児童生徒一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う

※これらでの「個別最適化」も学習到達度から評価し、評価する。

（『個別最適な学び』をもとに作成）

個別最適な学びの捉え方

個別最適な学びの捉え方

個別最適な学びの捉え方

個別最適な学び

授業進度が、学習方法や学習態度、学習活動も、学習の完成度や興味関心に応じて選択できる学び

「個別最適な学び」「協働的な学び」についての説明

本研究における言葉の捉え

授業づくりのポイント

図22 「手引」のイメージ

## 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善

「個別最適な学び」  
 「協働的な学び」  
 「一体的な充実」  
 「ICTの活用」

### 背景

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（令和3年3月答申）』及び「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」では、学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であると述べられている。

### 「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

### 「対話的な学び」の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人の対話、先哲の考えを手がかりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

### 資質・能力の育成

学びの機会に自ら主体的に取り組む力、主体的な学び

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
 思考力・判断力・課題解決力

「深い学び」の視点  
 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。  
 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」  
 ・教科等ならではの物事を捉える視点や考え方や  
 ・各教科等を学ぶ本質的な意義の中枢をなすものが  
 ・教科等の学習と社会をつなぐもの

### 「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

### 「対話的な学び」の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人の対話、先哲の考えを手がかりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

### 資質・能力の育成

学びの機会に自ら主体的に取り組む力、主体的な学び

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
 思考力・判断力・課題解決力

「深い学び」の視点  
 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。  
 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」  
 ・教科等ならではの物事を捉える視点や考え方や  
 ・各教科等を学ぶ本質的な意義の中枢をなすものが  
 ・教科等の学習と社会をつなぐもの

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

ICTの活用

point!

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から、学習活動や教師の支援について捉え直すことで、「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図る。
- ・学校教育の基盤的なツールとなるICTの効果的な活用を検討することで、授業の質の更なる向上を図る。



児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるようにするために

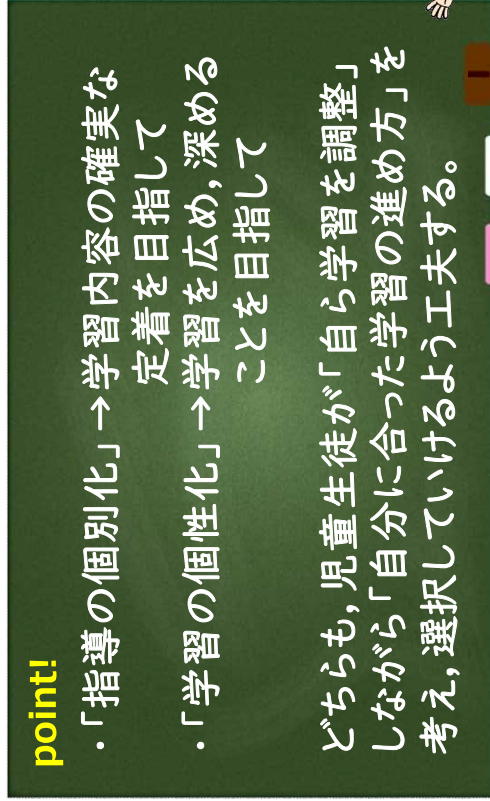
指導の個別化

- ・一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、一人一人の特性や学習進度、到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。

学習の個性化

- ・児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、児童生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組み機会を提供することで、児童生徒自身が学習が最適になるよう調整する。

(文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年)」を基に作成)



point!

- ・「指導の個別化」→学習内容の確実な定着を目指して
  - ・「学習の個性化」→学習を広め、深めることを目指して
- どちらも、児童生徒が「自ら学習を調整」しながら「自分に合った学習の進め方」を考え、選択していただけるよう工夫する。



- ・「個別最適な学び」が「孤立した学び」にならないよう、探究的な学習や体験活動などを通じ、児童生徒同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実する。

(文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年)」を基に作成)



point!

「多様な他者」



クラスメイトと 他校の児童生徒と 地域のひとと 専門家と

異なる考え方が組み合わせよりよい学びを生み出す



一体的な充実とは

個別最適な学び

協働的な学び

授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていく。「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなどして、ねらいの達成に向けて授業を構想していく。

(文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年)」を基に作成)

個別最適な学び

・指導の個別化  
・学習の個性化

生かす・還元する

協働的な学び

「一体的な充実を図る」

「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実

資質・能力の確実な育成

(文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年)」を基に作成)

point!

- ・「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」を充実にする。
- ・「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、互いに組み合わせる中で実現していく。





「ICTの活用」

ICTの活用

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なもの。
- ・ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意し、教育効果を考えながら有効に活用する。

これまでにできなかったことも可能に



これまでやっていたことを更に効果的に

- ・これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで、教育の質の向上につなげていく。

(文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年)」を基に作成)

「ICTの活用」

ICTの活用

指導の個別化の場面で

- ・学習状況の把握・分析, 個々の児童生徒に合った多様な学習方法, 学習履歴やデータの活用…etc

学習の個性化の場面で

- ・情報の探索, データの処理や可視化, レポートの作成や情報発信…etc

協働的な学びの場面で

- ・共同での作成・編集, 多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動, 遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流…etc

(文部科学省初等中等教育局「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年)」を基に作成)

「ICTの活用」

point!

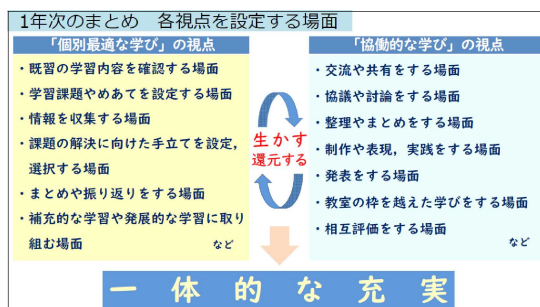
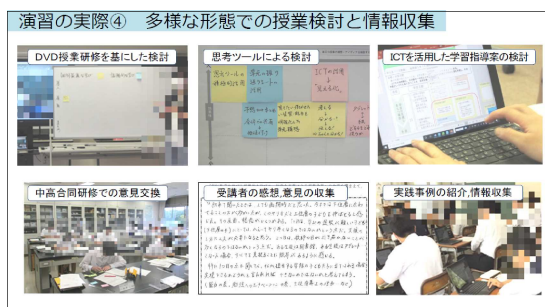
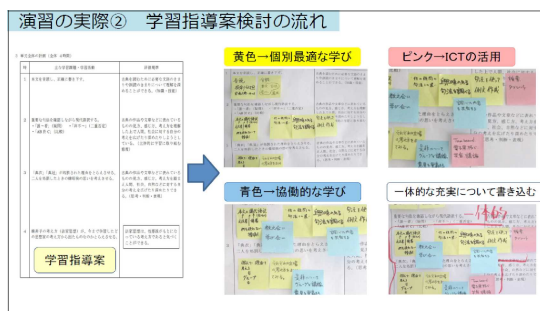
- ・必要不可欠なツールではあるが、ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意し、教育の質の向上につながる活用を検討する。
- ・「目的や場面に応じて」「どのように活用するか」具体的、計画的に検討する。

## <引用・参考文献>

- 秋田県教育委員会(2022)『令和4年度学校教育の指針』
- 秋田県総合教育センター(2019)『平成30年度研究紀要 50集』
- 秋田県総合教育センター(2020)『令和元年度研究紀要 51集』
- 秋田県総合教育センター(2021)『令和2年度研究紀要 52集』
- 秋田県総合教育センター(2022)『令和3年度研究紀要 53集』
- 荒瀬克己(2021)『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』NITSオンライン講座
- 合田哲雄(2022)『教育DXの先にある学びのあり方と学校の存在意義 - これからの学校教育に求められるもの - 』(全国教育研究所連盟総会・研究発表会 講演資料)
- 中央教育審議会答申(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)
- 奈須正裕(2021)『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社.
- 奈須正裕(2022)『個別最適な学びの足場を組む。』教育開発研究所.
- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房.
- 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省(2021)『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料』

# センター研究2

## 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による 授業改善（2年計画・1年次）



主幹(兼)班長  
主任指導主事

指導主事

小 玉 克 男  
阿 部 智 博  
小松田 哲 也  
藤 谷 寛  
部 谷 靖 子  
小 森 哉 子  
赤 川 嗣 昭  
田 口 峰 子  
小 宅 茂 子  
物 部 長 幸  
菅 原 英 明  
島 本 知 克  
小野寺 仁 志